

2025

学科に関わる筆記試験(日本文化学科)

〔編入学試験〕

注意

1. 試験開始の合図があるまでに、この注意をよく読んで間違いのないようにしてください。
2. 試験開始の合図があるまでは、問題冊子を開かないでください。また、解答用紙は机の上に裏返しにしておいてください。
3. この問題の本文は4ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合は申し出て下さい。
4. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。解答用紙は2枚です。なお、下書き用の原稿用紙を2枚配布します。
5. 文字ははっきり書いてください。解答の文字が読みにくい場合は、点を与えないことがあります。
6. 2枚の解答用紙それぞれに必ず受験番号を記入してください。

□ 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。なお、解答用紙に答案を書く際には、標準的な原稿用紙の使い方に準拠すること。

「言語論的転回」という言葉は、一時期人間科学、社会科学の研究者の間で随分と話題となりました。一般にもちいられている言葉ではないので、難解な感じがしますが、それほど難しいことを指しているわけではありません。言語（記号）によって記されることは、社会のなかで作りだされているということを議論として提示しているだけだからです。

たとえば、「オバマ元大統領はアメリカの最初の黒人大統領」という文章を何気なくもちいることがあります。これは絶対的な「事実」や「真実」ではありません。客観的な表現でもありません。特定の社会のなかで（残念ながら日本の社会もその一つですが）恣意的に使用されている表現に過ぎません。

オバマ元大統領はケニア系の男性といわれる白人に属するとされる女性との間に生まれました。したがって①この表現が適切であるかもまた問題となりえますが、現在日本で一般にもちいられている言葉にしたがえば、黒人と白人の「ハーフ」、もしくは「ダブル」です。そのような人々をどちらの人種に組み入れるかは、その時々社会において、社会的に作りだされているもの、構築されているものです。

たとえば日本で「最初に白人で大臣になったのは誰か」、という問題を問われたら誰のことを思い浮かべるでしょうか。「最初に黒人でアメリカの大統領になったのは誰か」という問いへの答えがオバマ元大統領であるとするなら、答えはたぶん中山マサ元議員（自由民主党、一八九一～一九七六）です（他の人がいるかもしれませんが）。彼女はアメリカ人と日本人のハーフだったからです。しかし、誰も彼女を「白人」とは呼ばないでしょう。ウィキペディアをみても、彼女が「日本で最初の女性閣僚（厚生大臣）であった」という記述はありますが、「日本で最初の白人閣僚」とは記されていません。

このように何気なく行われている表現からもわかるのは、言語は厳密に考えればそれ自体として「事実」を表すものではなく、社会的に構築されているということです。したがって言語による表現は、「事実」や「真理」を必ずしも厳密に言い表しているわけではなく、むしろ社会自体のあり方を示していることを指摘したのが、言語論的転回と呼ばれる議論です。

かつては十一月七日がロシア革命の記念日でした（十月革命とも呼ばれるように、当時ロシアで採用されていた暦では十月二五日ですが）。しかし、ボリシェヴィキ権力の確立という点から見ると、ここには少しおかしさがあります。一九一七年十一月七日にはたしかに冬宮を襲撃してそれまでの臨時政府を解体し、ソヴィエトがそれに代わる臨時権力となりました。

しかし、その時点で国民に約束されたことは、憲法制定議会を成立させるための選挙を行うことでした。翌年の選挙の結果、第一党になったのはボリシェヴィキではなく社会革命党です。国民は政権運営と憲法制定の権限を社会革命党に仮託したわけです。その憲法制定議会を、ボリシェヴィキを中心とする集団が実力で解散したのが（現在の暦では）翌年の一月一九日です。

つまり一度はそこに権力を移行することが約束されていたはずの憲法制定議会の権限を剥奪し、ソヴィエトに権力が一元化されたのは一九一八年一月一九日ですから、ロシア革命は一九一七年

にではなく、一九一八年に起きたと考えるでもいいわけです（正式にロシア社会主義連邦ソヴィエト共和国の設立宣言が行われたのは、この年の一月二三日です）。しかし、皇帝が退位して帝政が崩壊したのは一九一七年の三月ですから、一九一七年を革命の起きた年とすることもできます。

フランス革命の記念日はパリ祭の日である七月一四日、歴史的には一七八九年にバスティーユ牢獄襲撃が生じた日です。ここから、フランス革命は通常は一七八九年に起きたとされています。しかし、王政の廃止を革命の年と考えるなら、フランス革命で王権が停止されたのは一七九二年の八月ですから、フランス革命は一七九二年に起きたことになります。

革命の記念日をいつとするかは、以上のような例からもわかるようにかなり恣意的です。ソヴィエト政権が、一月一九日ではなく十一月七日を革命記念日にしたのは、自らの最終的な権力奪取の「非合法性」を隠蔽するためです。このように国家の記念日は、ある意図をもって制定されています。歴史の構築性の代表的な例です。

海外ではどのような授業が行われているのかを確認するために、イエール大学の近現代史概説を見ました。第一次世界大戦の部分。第一次世界大戦が起きた時期がテクノロジーの発達と重なり合っていて、映像で戦争が伝えられた最初の出来事であるというのが講義の中心的内容です。そのなかでとくに強調されていたのは、映像で伝えられたとはいえ、それは戦場の現場を必ずしも直写したものではないということです。

第一次世界大戦の場合はたしかに技術的な要因もあって、戦場を直写したかたちで報道することには困難もありました。しかし、技術がかなり発展したはずの第二次世界大戦、そして最近の戦争の報道においても、同じようなことが生じています。戦争は意外なほど直写的ではなく、構築的な要素が多いかたちで伝えられています。たとえば実際の戦場は、死体が四散するきわめて残酷なものです。しかし、そうした残酷さは実写映像とされるものにもほとんど登場しません。

反戦映画とされるものの多くは戦争の残酷さを描いていると思いますが、それは劇映画というフィクションのなかに「組み込まれた」残酷さとして、いかに残酷さが強調されているとしても一方ではソフィストケートされたかたちで伝えられています。なによりも多くの場合、戦争自体が構築された論理（たとえば正義）に付随するものとして、つまりある種のフィクションに付随するものとして伝えられています。それは戦争報道に関しても同じです。

このことのなかにある問題は、直写性（事実性）と虚構性（構築性）にある相互補完的な、一体的な関係です。さらに言えば、②事実を認識し伝える技術が発達するにともなって、構築的な要素の拡大が生じていることです。その影響によって、人々は構築された「事実」を知らず知らずのうちに共有するようになっていきます。多くの人々が共有している歴史に、そのような要素があるのは否定できません。事実性を主張した近代以降の歴史学が、構築されたナショナリズムとなぜあれほど見事に結合しえたのかということの理由も、おそらくはこの点にあります。

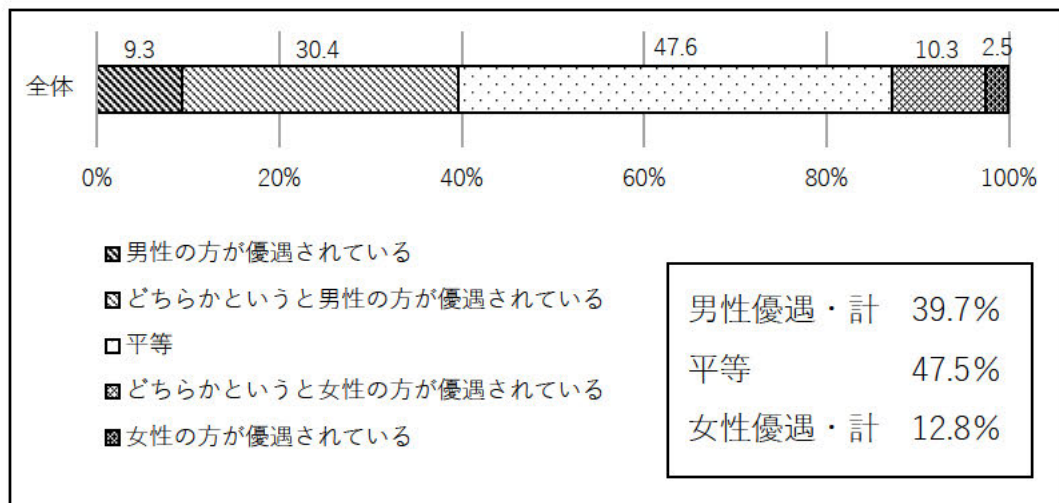
（岡本充弘『「小さな歴史」と「大きな歴史」のはざままで』）

問一 下線部①について、「この表現」の具体的内容を明らかにして、なぜその表現の適切性が問題となりえるのかを説明しなさい（150 字以上 200 字以内）。

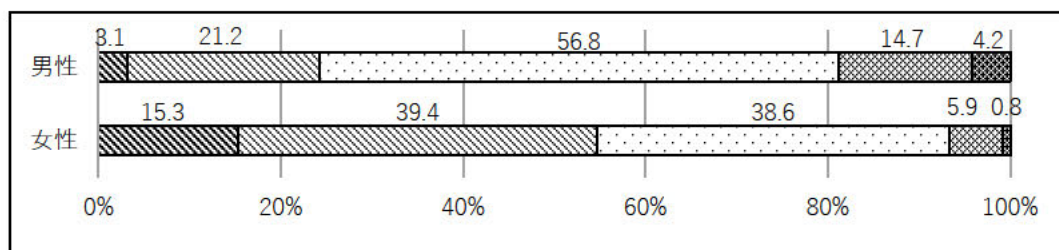
問二 下線部②について、問題文の議論を踏まえて、問題文中に示されたもの以外の具体例をあげながら、「事実を認識し伝える技術が発達するにともなって、構築的な要素の拡大が生じている」ことがもたらす影響についてあなたの考えを述べなさい（250 字以上 300 字以内）。

- 二 図は家庭の中で男女は平等になっていると思うかについて調査した結果である。図から読み取れる特徴を 300 字前後で説明しなさい。また、これらの図からあなたが考えたことを 200 字前後で述べなさい。なお、解答用紙に答案を書く際は、標準的な解答用紙の使い方に準拠すること。

全体



性別



性・年代別

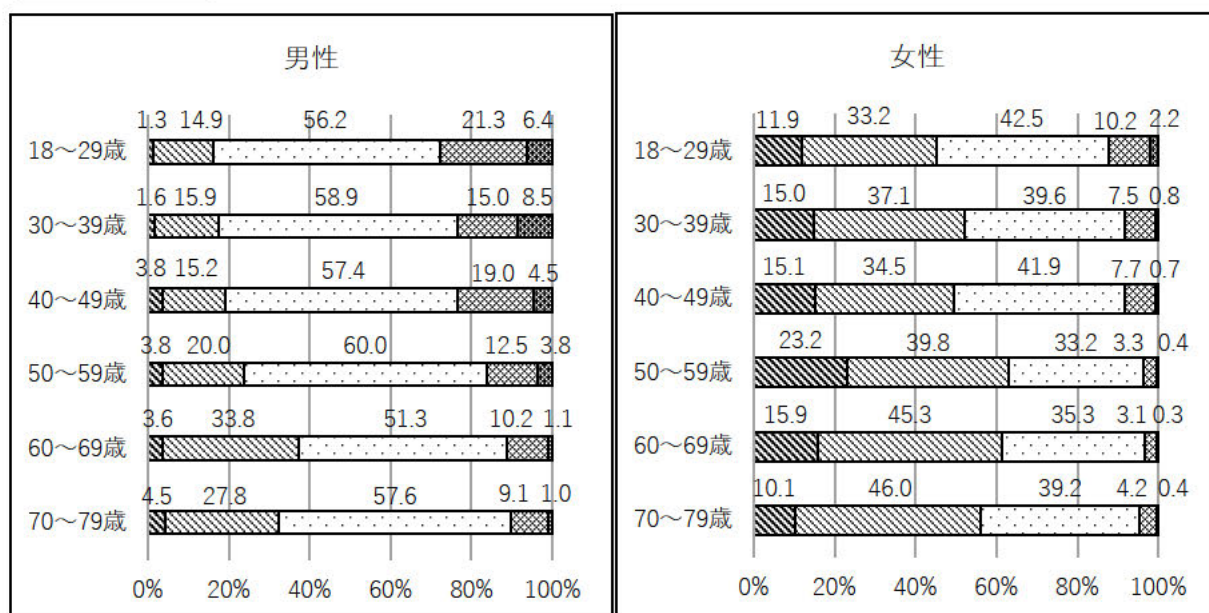


図 家庭におけるジェンダーに関する意識調査結果

出所：電通総研が実施したジェンダーに関する意識調査（2023 年 6 月）より作成した。

解答用紙①

受験番号				
------	--	--	--	--

評点	
----	--

--

問一(150 字以上 200 字以内)

(150)

(200)

問二(250 字以上 300 字以内)

(250)

(300)

小論文 出題の意図

入 試 年 度： 2025（令和 7）年度

入 試 名 称： 編入学試験（日本文化学科）

入試実施日： 2024（令和 6）年10月26日

※この「出題の意図」についての質問、照会には一切回答しません。

日本文化学科の授業を理解するための基本的な読解力、表現力、図表を把握する力を問う出題である。人文学的なテーマに関する論理的な文章を読解し、その内容についての適切な理解力をはかる設問と、グラフや図表などを通じて統計的なデータを読み解く基礎的な能力をはかる設問の2題を出題した。

大問1では、歴史学における言語論的転回をテーマとする歴史研究者による随筆文の読解を通じて、歴史と文化を理解するうえでの重要な問題意識に関する理解力を問うた。

大問2では、家庭における男女それぞれの平等意識をめぐるアンケート調査をもとにしたグラフを読み解くことを通じて、ジェンダーをめぐる問題についてエヴィデンスをもとに考察することを求めた。